

(公社) いわき青年会議所 副理事長 意見書

副理事長 飯野 光長

1 「たったひとつの誇りを持てるいわき」を創り上げるために、いわきJCは地域を活性
2 化させる運動や、いわきの魅力を文化として確立し発信する運動を行ってまいりました。
3 しかし、いわき市は社会動態の変化により、まちとしての機能を維持するのが難しい状況
4 になることが予想されます。これまでにやってきたまちづくり運動をさらに発展させ、時
5 代に適応したいわき独自の地域のあり方を考えて運動を展開していかなければなりません。
6 まずは、新たなまちの形態が求められていく中で私たちが行う創生へ向けた取り組みを
7 考えたとき、行政や他団体の行う地方創生について見識を深める必要があります。それら
8 と連動しながら理想とするいわきの実現のためにJCがすべきことを想像しなければなり
9 ません。そして、震災後私たちが行ってきた、いわきへ避難してきた方たちとの共生推進
10 運動のみならず、真の復興を遂げるためには心の復興を課題として取り上げ、解決へ向け
11 た運動が必要となります。さらに、いわきは他のまちにない独自の魅力を多く持っていま
12 す、今までも独自の魅力を確認するための運動や広く発信するための運動を続けてきまし
13 た。いわきの魅力を知ってもらう運動を継続して行い、いわき市民への浸透を推進するだ
14 けに止まらずいわきへ訪れる方の増加やいわきから離れて生活されている方が戻ってくる
15 魅力溢れるまちになるための運動をし続けていかなければなりません。また、いわきでは
16 東日本大震災により大きな被害に合いましたが、年々災害に対する意識は薄れてきていま
17 す、有事の際に私たちは何ができるのか、何をすべきなのか改めて見直すことが必要です。
18 新たなまちの形態を見据えた独自の創生はまちとしての機能強化へ繋がり、いわきの魅
19 力を広く発信することは故郷を誇る市民と来訪者の増加へと繋がります。両輪の運動展開
20 は活気あるまちの礎となり、可能性が広がるJC運動と夢溢れる故郷の創造が実現します。